

2021年度教育ネットワーク中国第5回研修会（オンライン）開催報告  
大学行政管理学会中国・四国地区研究会との共催

1. テーマ「学生を支援するには、何をすればよいですか？」

学生支援とは何か……。コロナ禍における様々な場面で、このような疑問をもった大学職員は少なくないだろう。一昨年度末からのおよそ2年間、刻々と変化する学生の状況を把握するだけでも苦勞する中で、さらに危機的状況下にある学生への支援が求められてきた。コロナ禍以前とは違い、会えない中でどのように学生を支援するのか。多くの大学職員が悩んだことだろう。

翻って、コロナ禍以前の多くの大学は、「学生の自由」を売りにして、学生たちはそれぞれ自由にやりたい“こと”をやっていた。大学の中からみると当たり前のことを言っているように聞こえるが、ここで考えてほしい。「学生の自由」を謳いすぎるがために、いつしか「自由」が「放任」になってはいなかっただろうか。学生数の多い大学であれば、学生一人ひとりのやりたい“こと”を把握し、支援することは不可能に近い。しかし、「自由」が「放任」になることで学生の顔が見えなくなり、コロナ禍における学生の状況把握が一層困難になったとは言えないか。平常時、学生に対してどのような支援をしていたか。これが、危機的状況下における学生の行動を左右するのかもしれない。

では、学生を支援するとはどういうことか。学生の状況によって一概にはいえないが、「学生の諸活動や諸状況に対して、先を見据え、指導・助言すること」と捉えている方が多いのではないだろうか。辞書で「支援」と調べると、「力を貸して助けること」と書いてある。大学職員である私たちが通常考える「指導・助言する」支援と、辞書がいう「力を貸して助ける」支援とは少し違うだろう。もしかすると、平常時の支援と危機的状況下の支援との違いといえるかもしれない。

私たちが、「支援」を「指導・助言すること」と捉える理由の一つとして、大学設置基準にある「厚生補導」が挙げられるだろう。辞書で「厚生」と「補導」をそれぞれ調べ、そこから厚生補導を表すと、「学生の生活が健康で豊かなものになるよう、正しい方向に教え導くこと」となる。私たちが学生に対する支援を「指導・助言すること」と捉えるのは、厚生補導の「正しい方向に教え導くこと」に起因しているのではないかと推察する。

このたびの研究会は、戦後の厚生補導政策からこれまでの学生支援政策の歴史を紐解き、これまでの大学職員がどのように考え学生を支援してきたのかを慮りながら、昨今のコロナ禍における学生支援の事例を学び、私たち大学職員がこれからのべき行動や学生を支援するための仕組みづくりの糸口を探りたいと思う。

2. 日時 2021年12月19日（日）13：30～16：00（受付開始13：15～）

※研究会終了後、情報交換会（16：00～16：30）を予定

3. 会場 Zoomによるオンライン開催

4. プログラム

13：30～ 開会

13：40～ 講演「戦後日本の学生支援とは何か

－「厚生補導」の制度改革と理念・目的・担い手の歴史から－（60分）

広島大学 高等教育研究開発センター 助教 蝶 慎一 氏

14：40～ 休憩

14：50～ 事例発表1「コロナ禍における学生の友人関係とコミュニケーション」（25分）

広島市立大学 企画室 特任助教 山咲 博昭 氏

15：15～ 事例発表2「学友会（学生自治組織）活動の支援から考えたこと」（25分）

広島経済大学 学務センター学生課 係長 西國 真一 氏

15：40～ 質疑応答（15分）

15：55～ 閉会

16：00～ 情報交換会（～16：30）

5. 参加者について

49人参加 ※講師含む

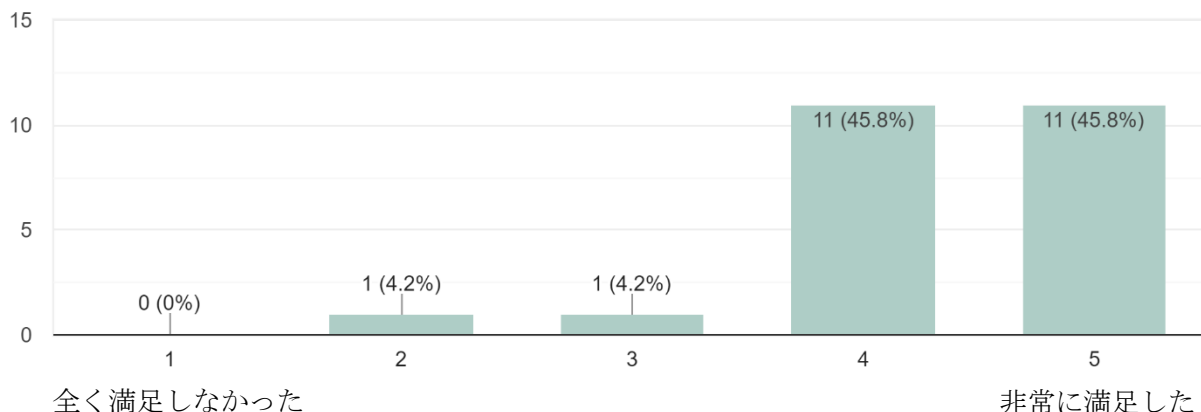
県立広島大学3人、近畿大学工学部1人、広島経済大学4人、広島国際大学2人、

広島修道大学3人、広島女学院大学3人、広島市立大学1人、広島大学2人、

安田女子大学2人、島根県立大学2人、教育ネットワーク中国1人、その他組織25人

このたびの研究会の満足度を教えてください。

24件の回答



上記、満足度の理由を教えてください。

講演では、学生課が担う業務の歴史的背景を第一人者の先生からご教示いただくことができ、大学設置基準に書かれている文言がなぜ「厚生補導」なのかという疑問に思っていたことやその言葉の意味を知ることができ、大変勉強になりました。

事例発表1ではコロナ禍における学生の実態を実例と共に知ることができたこと、特に学生の生の声を聞いた（自身は教務課所属のため、事例で取り上げたような学生の実態を知る機会はそれほどない）ことは、今後の学生対応にも生きるかと考えております。また、「サポート」の意味を改めて考える機会になりました。

事例発表2では、日ごろから業務と真摯に向き合っていच्छることが伝わってきて、自身のモチベーションに繋がりました。取り組みをきちんと整理して記録に残す作業は、やるべきことと分かりつつも意外とできていない事が多いと思います。学生の主体性も引き出しつつサポートされている姿勢を見習いたいと思います。

学生支援とは決して教職員が考える「支援」を与えるのではなく、まず学生の声を聴きそれにどう応えることができるか、大学として何ができるのかを時に学生と一緒に考えていくことだと理解できました。

学生支援の歴史に知ることができたからです。

根本的な部分は変わらないということ意識してこれからも業務に携わりたいと思いました。

また学生支援の事例を紹介いただき、自身の業務に生かされる考え方を得ることができたので非常に満足しました。

学生支援の歴史から現状までを理解できた。

学内で学生サポート活動に携わっています。その中で「大学がどこまで学生に関わるか」という問題に

直面することが多いと感じています。今回の研究会で紹介されたピアサポート等での学生によるサポートにおいても、おそらく同様の問題があるのではないかと思います。貴学会の本研究会には初めて参加させていただいたため、過去取り上げられたテーマなのかもしれませんが、個人的には大学が学生に関与する（できる）範囲に関心をもっていただけるところから、上記のような回答となりました。

具体的なことが多くなかったと感じました。

他大学の現状も知ることが出来たこと

学生支援の歴史について詳細にご説明いただき、コロナ禍における他大学の状況や具体的な学生支援のお取り組みを伺うことができたため。

それぞれのご専門の視点でお話ししてくださり、とても勉強になりました。

昨今、コロナ禍で他大学様の取組事例を聞く機会もないことから大変参考になった

蝶先生の講義を楽しみにしていたため。

興味あるテーマだったので、満足しています。

「学生支援」を歴史研究としてひも解き考える面と昨今の事例から考える面とあり、とても参考になりました。他大学の事例をもっと聞いてみたかったです。

厚生補導について知らない部分を知ることができた。

学生支援について、具体的な事例を伺うことができました。

蝶先生のお話が大変興味深かったです。現在の学生支援をどうしようと思ったら、根源的な始まりを知っておくことが大切だと痛感しました。

どのお話しも興味深かった

学生支援に関し、様々な角度から、様々な方の意見を聴くことができ、多面的に考えられるようになった。

アカデミックな講義と実践的・現実的な事例紹介の組み合わせはよかった。

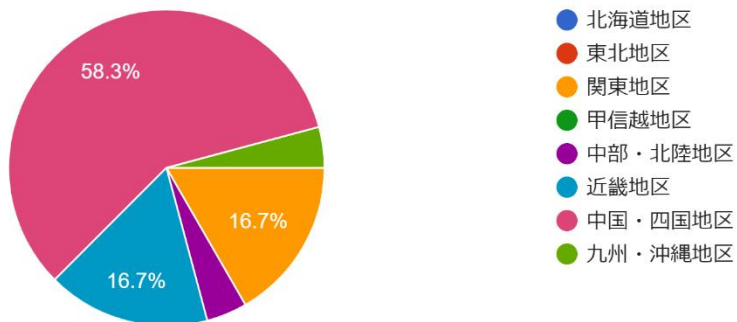
蝶先生の公演が個人的な興味・関心と大学院～現在までの研究テーマに隣接しており、論文とはまた違った形での発見があったため。

新しい知識や視点を得ることができた。

理論と実践、両方を伺えたから。

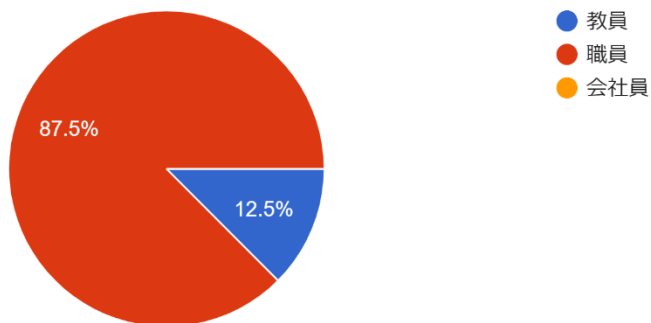
所属機関の所在地はどこですか。

24 件の回答



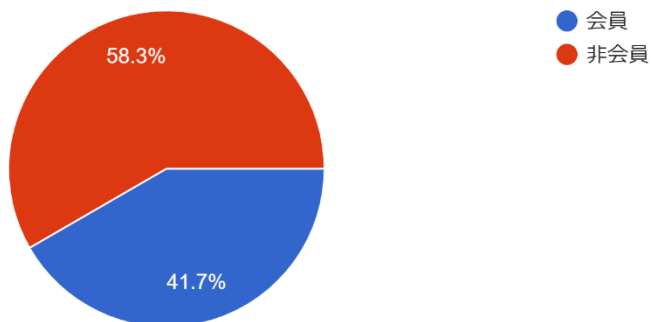
職種は何ですか。

24 件の回答



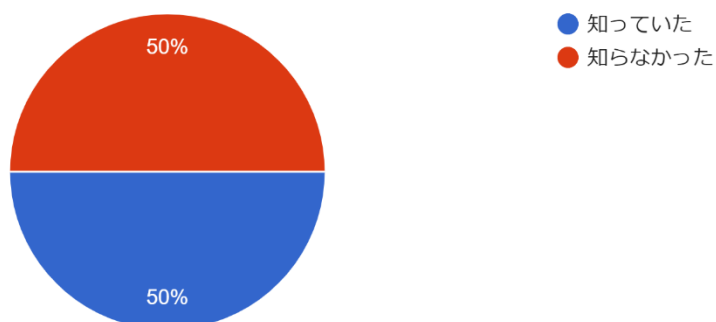
大学行政管理学会員ですか。

24 件の回答



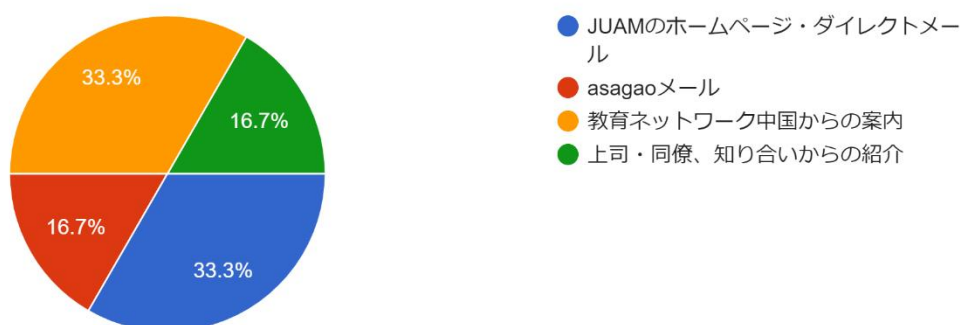
【非会員の方のみ】 大学行政管理学会を知っていましたか。

14件の回答



このたびの研究会をどのように知りましたか。

24件の回答



参加の動機を教えてください。

テーマに興味があったため。

2021年2月に教務から学生支援に異動になり、学生支援について他大学の考えや学生支援の根本的な部分を再確認したいと思ったからです。

学生支援を担当しているから。

既にお答えしているので、省略します。

何か、学生の支援になる方法が勉強になるかと思いました。

他大学の情報も知りたかたから

コロナ禍における他大学の状況や学生支援に興味があったため。

テーマに関心が高かったため。

オンライン研修で参加しやすい環境であったから

学生支援の方針を考えるヒントが欲しいと思っていました。学生指導や厚生補導という言葉がいろいろと解釈があるので、歴史的な原点を知るのには大事だとおもったため。

学生補導に興味があったため。

学友会などの学生活動の支援についてコロナ禍でどのように対応すればよいのか悩んでいたため、他大学の事例を知る機会と考えたからです。

厚生補導について歴史的な経緯を知りたかったから

コロナ禍における学生支援の他大学事例を知るためです。

知人のすすめ

テーマや講演内容から

コロナ禍等で学生支援の形も変わらざるを得ないところ、欠いてはいけないことを知りたかった。

コロナ禍で今までと違う形の学生支援が求められる中、学生支援のそもそも論的などころから知りたかった。

コロナ禍の今、まさに学生支援の在り方を考えたかったから

蝶先生の講演内容に興味をもったため。

テーマ学生支援に関心があった。

学生支援に興味があったから。

今後、どのようなテーマの研究会があれば参加してみたいですか。

障害学生の配慮（教務・学生支援的な）について事例を基にした講演や、それを基に work を取り入れたものがあればぜひ参加させていただきたいです。

教学に関すること

学修面、生活面における大学による学生サポートの、大学が学生に關与する（できる）範圍について

学生支援、危機管理

コロナ禍のキャリア支援、国際交流支援について

学生支援についても、教務關係や、就職關係、課外活動關係や奨学金關係と様々あるので、担当ごとの座談会のような研究会があれば参加してみたいです。

職員の業務の根本となるところと変遷（今回の厚生補導のように、教務・入試など）

DX に関する取り組みについて。

コロナ禍～アフターコロナを見据えた学生支援のあり方を考えるというテーマには興味があります。

学生実態、教職協働、SD、IR、大学の専門職員の導入、今後の学生支援のあり方

地方大学における IR 事情